

講義コード	11C0286600	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	青才 高志	開講期	通年																														
科目名	景気循環論																																						
履修前提条件						備考																																	
授業の目的	1980年代後半日本経済はバブルに浮かれていたが、90年代には一転して戦後最長の「不況」に苦しめられることになった。08年には、リーマンショック、「百年に一度」といわれる金融・経済危機が世界を襲った。そして、ギリシャ危機に始まるユーロ・ソブリン危機、11年頃からの新興国の経済停滞、15年以後の中国経済減速等、未だ「不況」を脱していない。また、日本政府の判断では、12年末（アベノミクス）以後日本経済は長い「回復」過程にあるとされているが、11-15年と実質賃金は低下している（2016年は若干のプラス）。これらのことからわかるように、「景気」動向、および、その変化、すなわち「景気循環」は、私達の生活に大きな影響を及ぼしている。本講義では、この、経済の動態、経済の諸要素の集合が織りなす「景気循環」の理論を説明し、それを踏まえて現実の「景気循環」の分析を行う。																																						
到達目標	<p>(1) 資本主義経済における景気循環の原理・法則の基本を説明することができる。また、そのことは、景気循環は資本主義における経済諸法則の合成結果であるが故に、資本主義の経済諸法則の基本を説明できるということを意味する。</p> <p>(2) 資本主義の歴史的变化とともに景気循環がどう歴史的に変容してきたかの概略を説明することができる。また、それは同時に、景気循環という視点から、資本主義の変容の概略を説明できるということを意味する。</p> <p>(3) 1) アメリカ発サブプライム発グローバル金融経済危機の原因、その結果、今後の帰趨、2) アベノミクスの経過・結果、の概略を理解し、説明することができる。それは同時に、世界経済・日本経済の「今」を理解し、将来予測を行うことができるということの意味する。</p>																																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で扱った内容や、次回の授業で扱う予定の内容について、教科書及び参考書を用いて、また、図書館やインターネット等を利用して予習・復習を行う。授業外で計120時間以上の学修を行うこと。																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 はじめに、現下日本経済の「景気」動向</td> <td>【第16回】 はじめに、自由主義段階の景気循環</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 景気循環論の方法</td> <td>【第17回】 19世紀末大不況、</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 景気循環の歴史的概観</td> <td>【第18回】 金融資本のもとの景気循環の形態変化</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 キチン・ジュグラー・コンドラチェフ</td> <td>【第19回】 世界大恐慌</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 好況期の資本蓄積 (1)</td> <td>【第20回】 世界大恐慌に対する対応</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 好況期の資本蓄積 (2)</td> <td>【第21回】 戦後高度成長</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 好況期の資本蓄積 (3)</td> <td>【第22回】 高度成長期日本の景気循環</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 好況期の信用 (1)</td> <td>【第23回】 高度成長の終焉とスタグフレーション</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 好況期の信用 (2)</td> <td>【第24回】 80・90年代アメリカの景気循環</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 好況期の信用 (3)</td> <td>【第25回】 70-90年代日本の景気循環 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 恐慌期 (1)</td> <td>【第26回】 70-90年代日本の景気循環 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 恐慌期 (2)</td> <td>【第27回】 グローバル金融経済危機 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 不況期 (1)</td> <td>【第28回】 グローバル金融経済危機 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 不況期 (2)、景気循環の周期性</td> <td>【第29回】 アベノミクス下の「景気」動向</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 第1期のまとめ</td> <td>【第30回】 本講義のまとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 はじめに、現下日本経済の「景気」動向	【第16回】 はじめに、自由主義段階の景気循環	【第2回】 景気循環論の方法	【第17回】 19世紀末大不況、	【第3回】 景気循環の歴史的概観	【第18回】 金融資本のもとの景気循環の形態変化	【第4回】 キチン・ジュグラー・コンドラチェフ	【第19回】 世界大恐慌	【第5回】 好況期の資本蓄積 (1)	【第20回】 世界大恐慌に対する対応	【第6回】 好況期の資本蓄積 (2)	【第21回】 戦後高度成長	【第7回】 好況期の資本蓄積 (3)	【第22回】 高度成長期日本の景気循環	【第8回】 好況期の信用 (1)	【第23回】 高度成長の終焉とスタグフレーション	【第9回】 好況期の信用 (2)	【第24回】 80・90年代アメリカの景気循環	【第10回】 好況期の信用 (3)	【第25回】 70-90年代日本の景気循環 (1)	【第11回】 恐慌期 (1)	【第26回】 70-90年代日本の景気循環 (2)	【第12回】 恐慌期 (2)	【第27回】 グローバル金融経済危機 (1)	【第13回】 不況期 (1)	【第28回】 グローバル金融経済危機 (2)	【第14回】 不況期 (2)、景気循環の周期性	【第29回】 アベノミクス下の「景気」動向	【第15回】 第1期のまとめ	【第30回】 本講義のまとめ
【第1回】 はじめに、現下日本経済の「景気」動向	【第16回】 はじめに、自由主義段階の景気循環																																						
【第2回】 景気循環論の方法	【第17回】 19世紀末大不況、																																						
【第3回】 景気循環の歴史的概観	【第18回】 金融資本のもとの景気循環の形態変化																																						
【第4回】 キチン・ジュグラー・コンドラチェフ	【第19回】 世界大恐慌																																						
【第5回】 好況期の資本蓄積 (1)	【第20回】 世界大恐慌に対する対応																																						
【第6回】 好況期の資本蓄積 (2)	【第21回】 戦後高度成長																																						
【第7回】 好況期の資本蓄積 (3)	【第22回】 高度成長期日本の景気循環																																						
【第8回】 好況期の信用 (1)	【第23回】 高度成長の終焉とスタグフレーション																																						
【第9回】 好況期の信用 (2)	【第24回】 80・90年代アメリカの景気循環																																						
【第10回】 好況期の信用 (3)	【第25回】 70-90年代日本の景気循環 (1)																																						
【第11回】 恐慌期 (1)	【第26回】 70-90年代日本の景気循環 (2)																																						
【第12回】 恐慌期 (2)	【第27回】 グローバル金融経済危機 (1)																																						
【第13回】 不況期 (1)	【第28回】 グローバル金融経済危機 (2)																																						
【第14回】 不況期 (2)、景気循環の周期性	【第29回】 アベノミクス下の「景気」動向																																						
【第15回】 第1期のまとめ	【第30回】 本講義のまとめ																																						
成績評価の方法	第1学期期末中間試験 (50%)、第2期の教科書を対象とした課題レポート (15%)、第2学期期末試験 (35%) により評価する。																																						
フィードバックの内容	試験の解答等の解説を Webclass にアップロードする。																																						
教科書	『新3版 現代経済の解説』SGCIME 編 (御茶の水書房) 2017年出版																																						
指定図書																																							
参考書	『恐慌論』宇野弘蔵 (岩波文庫) 1910年																																						
教員からのお知らせ	(1) 第2期には、受講の際、毎回必ず教科書を持参すること。 (2) ……@rissho-univ.jp に送信された E-mail が手元で使っているスマホ・PC 等に転送されるように設定しておくこと。 なお、スマホ等の E-mail address が変わった場合には、忘れないで転送設定の変更をしておくこと。																																						
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内で対応する。また、メールによる質問・相談も受け付ける。 E-mail aosai@shinshu-u.ac.jp。 なお、青才と連絡を取りたい場合には、Webclass を通じてではなく、上記 E-mail address 宛に直接 E-mail すること。																																						
その他																																							